

地域のテーマを市民の目線で
市民記者のページ



ほしの みちこ
星野 道子 さん（向上野）

地域を担っていく立派な人材を育成する学校となることを期待しています。

児童生徒数の減少が続いており「学校の在り方検討委員会」で児童・生徒の教育環境をより良くするた

なぜ義務教育学校設立なのか

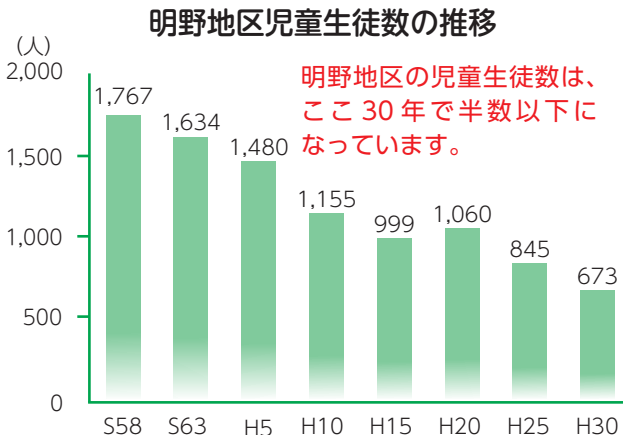
筑西市では、児童生徒数の減少に伴う、学校の小規模化などの課題に対応するため「筑西市小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定し、明野中学校区をモデル地区に設定しました。現在、明野中学校敷地内に校舎などの整備計画が進められています。

義務教育学校の推進にあたっては、地元代表のみなさんによって「義務教育学校・明野地区準備委員会」が設置されています。委員長の鈴木親男さんにお話を伺いました。

め、小中一貫教育と適正配置について検討されてきました。

学校の小規模化には、「二人ひとりに目が届きやすい」、「相互の人間関係が深まりやすい」などのメリットがある一方「人間関係が固定化してしまう」、「切磋琢磨されにくい」などのデメリット

(※) 複式学級
2つ以上の学年の児童が一緒になって、1人の先生の下で学ぶ学級のこと





義務教育学校について話す鈴木委員長

準備委員会では、先行事例を参考に、さまざまな課題を解消し、良い所を取り入れていくために、桃山学園（桜川市）や新治学園（土浦市）を視察しました。

学校名の公募では「明野」、「五葉」が入ったものが多かったことから「明野五葉学園」が候補となっています。校章は現在の明野中学校でも使われている、五つの葉（5つの小学校）をモチーフとしたデザインを検討しています。

通学についても、実際の通学時間帯にバスを使って、スクールバスに関する実証実験を行ったり、通学路を歩いたりしています。また、明野中学校の屋内プールを幼稚園・小学校が共同で利用できるように計画するなど、明野地区が一体となって教



令和6年4月開校予定の「義務教育学校」の完成予想図

明野地区小学校5校と明野中学校を統合
小中一貫「義務教育学校」に期待

これまでの進捗状況

トがあると言われています。特に、明野地区の児童数減少率は大きく、鳥羽小学校の3・4年生はすでに複式学級（※）になっています。

取材を通して

「地域の人たちや市議会議員のみなさんなどの応援のもと、順調に進んでいるので、やりがいを感じています。これから子どもたちの未来のためにがんばろうと思っています」と熱意を込めて語る鈴木さん。

5年間という委員会の長い任期、午後6時30分からの会議の開催など心身ともに大変なことだと思いが、命がけで子どもたちを応援しているという気概を感じました。



明野地区 義務教育学校

明野中学校（明野地区義務教育学校予定地）

義務教育学校のメリット

- 中学校進学時の学習面・環境面・人間関係の変化による「中1ギャップ」の軽減
- 早期化する子どもたちの身体的・精神的発達に対応
- 小学校、中学校の区切りがないため、授業内容の重複を避けられる
- 小学生は中学生に憧れを持ちやすく、中学生はリーダーシップをとる場面が多くなる
- つまづきやすい教科を専門の先生が教えることで、理解しやすい環境づくり
- 小中学校の教師同士の連携強化、子ども一人ひとりにきめ細やかで適切な対応

義務教育学校・明野地区準備委員会の役割と検討事項

総務部会	PTA部会	学校運営部会
・学校名 ・校歌 ・校章 ・校旗 など	・PTA 規約 ・スクールバス運行計画 ・通学路 など	・学校経営方針 ・教育課程 ・備品などの移転 ・学校間の交流事業 など

専門部会で個別に具体的な検討を進めています。

義務教育学校とは

1人の校長先生のもと、1つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の目標を設定する。



市内で初めての義務教育学校
令和6年4月開校をめざして

義務教育学校では、小学校から中学校への円滑な接続を図り、義務教育9年間の「学び」や「育ち」をつなぐ特色ある取り組みを通じて、学力の向上はもとより、コミュニケーション能力

シヨン能力、主体性や積極性などを図るとともに、ふるさとや伝統文化を大切にしながら、グローバルな人材を育成するための段階的かつ系統的指導が期待できます。